妙昌寺

妙昌寺は、1300 年代後半から松平郷を治めていた松平家と深いつながりのある曹洞宗の小さなお寺だ。お寺は王滝渓谷にあり、苔むした石垣で固められた段々畑の上に建つ。渓谷の入り口にある駐車場から川沿いの坂道を歩いて数分のところにある。1854 年に建てられた本堂と、渓谷に面した本堂よりやや古い門、そして鐘楼がある。妙昌寺には常時、住職が不在であるため、本堂は通常非公開である。

寺は 1350 年代に旅の禅僧によって創設され、当初は孤独な精神修行のための場所だったという。その後、松平家の祖先である松平親氏（伝 1394 年没）の保護を受け、寺を拡張し、初めて常設の堂を建立した。それ以来、妙昌寺は松平家の庇護を受けてきた。

寺の宝物の中には、松平元康（1543-1616）、のちに徳川家康と名乗って幕府を開いた武将の命令が書かれた木札がある。この命令は、1557 年から 1563 年の動乱期に出されたと考えられており、妙昌寺の境内での武力行使を禁止している。妙昌寺は、近隣で戦乱が起きた場合には、村人が門の中に身を寄せることができる安全な場所として機能していたことを示している。